

項目	説明	
試料・情報の	研究課題名	早期子宮体癌に対する腹腔鏡下・ロボット支援下手術における皮下気腫発生リスク因子
利用目的 及び	研究対象者	子宮体癌と診断された患者さんのうち、2020年5月から2026年1月の間に神奈川県立がんセンターで腹腔鏡下またはロボット支援下手術を受けられた方
利用方法	研究目的	皮下気腫は腹腔鏡下・ロボット支援下手術の一般的な合併症のひとつで多くは自然に軽快しますが、稀に重篤化することが知られています。婦人科以外の領域ではロボット手術、女性、高齢、低BMI、長時間手術、高気腹圧がリスク因子として報告されていますが、婦人科領域におけるリスク因子ははっきりわかりません。婦人科は女性を対象としており、子宮体癌の腹腔鏡下およびロボット支援下手術は高齢の方にも適応され、術式によっては長時間手術となることがあります。適切な周術期の管理のためにリスク因子を同定することが有効だと考え、この研究を計画しました。
	研究方法	診療録を用いて情報を収集します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2026 年 4 月 20 日 ~ 西暦 2027 年 3 月 31 日
	利用又は提供を開始する時期	<input checked="" type="checkbox"/> 総長が研究実施を許可した日 <input type="checkbox"/> 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 試料:	<input type="checkbox"/> 血漿、 <input type="checkbox"/> 血清、 <input type="checkbox"/> 全血、 <input type="checkbox"/> 末梢血から抽出した DNA、 <input type="checkbox"/> 病理検体(具体的に記載: _____)、 <input type="checkbox"/> 尿、 <input type="checkbox"/> 糞便、 <input type="checkbox"/> 唾液、 <input type="checkbox"/> 胸水、 <input type="checkbox"/> 腹水、 <input type="checkbox"/> 脳脊髄液、 <input type="checkbox"/> 毛髪、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報:	<input checked="" type="checkbox"/> 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢、 <input type="checkbox"/> 生年月日、 <input checked="" type="checkbox"/> 性別、 <input checked="" type="checkbox"/> 既往歴、 <input checked="" type="checkbox"/> 併存疾患、 <input type="checkbox"/> 外来日・入院日・退院日、 <input type="checkbox"/> 臨床検査値、 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、 <input type="checkbox"/> ゲノムデータ、 <input type="checkbox"/> 看護記録、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター 研究責任者	所属・氏名 婦人科 横澤 智美
	共同研究機関 および責任者	施設名・氏名 婦人科 佐治 晴哉
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先 神奈川県立がんセンター 婦人科 横澤 智美 045-520-2222 利用停止のお申し出は2026年5月30日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	